(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2017-141184
(P2017-141184A)
(43)公開日　平成29年8月17日(2017.8.17)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A61K 8/81	(2006.01)	A61K	8/81	4C083
A61K 8/02	(2006.01)	A61K	8/02	
A61K 8/41	(2006.01)	A61K	8/41	
A61Q 19/00	(2006.01)	A61Q	19/00	

審査請求 未請求　請求項の数 8　ＯＬ　（全 12 頁）

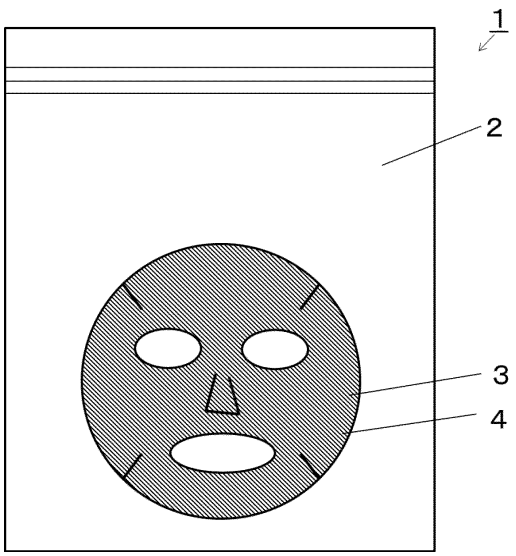
(21)出願番号　特願2016-23177(P2016-23177)
(22)出願日　平成28年2月9日(2016.2.9)

(71)出願人　391027929
三粧化研株式会社
大阪府大阪市住吉区杉本１丁目７番２５号
(74)代理人　100082072
弁理士　清原　義博
(72)発明者　堤　響
大阪府池田市住吉２丁目１４番２０号　三粧化研株式会社内
(72)発明者　畠中　克人
大阪府池田市住吉２丁目１４番２０号　三粧化研株式会社内

最終頁に続く

(54)【発明の名称】ピーリングパック剤

(57)【要約】
【課題】主剤を基材に含浸させているピーリングパック剤を提供し、ピーリングパック剤を剥離後、皮膚を軽く擦ることで皮膚の汚れや古い角質を落として美容成分や抗菌剤等の皮膚への浸透を促進することができるピーリングパック剤とすること。
【解決手段】主剤を基材に含浸させている又は主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、該主剤は少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、該基材は吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むことを特徴とする、ピーリングパック剤とする。
【選択図】図１



【特許請求の範囲】
【請求項１】
主剤を基材に含浸させているピーリングパック剤であって、
該主剤は少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、
該基材は吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むことを特徴とする、ピーリングパック剤。
【請求項２】
主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、
該主剤は少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、
該基材は吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含み、
使用時に主剤を基材に含浸させることを特徴とする、ピーリングパック剤。
【請求項３】
前記水溶性ポリマーがアクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体又はカルボキシビニルポリマーのいずれか１つあるいはその組み合わせであることを特徴とする、請求項１又は２記載のピーリングパック剤。
【請求項４】
前記４級カチオン系界面活性剤が塩化ジココイルジメチルアンモニウム、臭化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム又は塩化トリ（ポリオキシエチレン）アルキルアンモニウムのいずれか１つあるいはその組み合わせであることを特徴とする、請求項１乃至３のいずれかに記載のピーリングパック剤。
【請求項５】
前記主剤が１価又は２価の塩を含むことを特徴とする、請求項１乃至４のいずれかに記載のピーリングパック剤。
【請求項６】
前記１価又は２価の塩の配合量が、前記主剤の０．０１重量％から５重量％であることを特徴とする、請求項５記載のピーリングパック剤。
【請求項７】
前記主剤は美白成分を含み、該美白成分がビタミンＣ及びその誘導体、アルブチン、プラセンタエキス、ハイドロキノン、エラグ酸、ルシノール、リノール酸、コウジ酸、トラネキサム酸又はこれらの成分の２種以上の組み合わせからなる群から選択されることを特徴とする、請求項１乃至６のいずれかに記載のピーリングパック剤。
【請求項８】
前記主剤は抗菌剤を含み、該抗菌剤がイソプロピルメチルフェノール、トリクロサン又はその組み合わせからなる群から選択されることを特徴とする、請求項１乃至７のいずれかに記載のピーリングパック剤。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、主剤を基材に含浸させているピーリングパック剤に関し、詳しくは少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、必要に応じて美白成分や抗菌剤を含み、該基材は紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むシートである基材に含浸させたピーリングパック剤であって、該ピーリングパック剤を顔や足等の身体の一部に貼り付け、一定時間が経過後剥離し、皮膚を軽く擦ることで皮膚の汚れや古い角質を落として美白成分や抗菌剤等の皮膚への浸透を促進することができるピーリングパック剤に関する。
【０００２】
従来より、皮膚の保湿、血行促進、清浄等を目的として、パック剤が用いられている。パック剤には、皮膚に塗布して被膜を形成させた後に剥離するものや、拭取ったり洗い流

したりするものがあり、最近では顔を覆う大きさで目、鼻、口に相当する部分に穴が開けられている形状の不織布やコラーゲンシートに化粧料を含浸させたものや前記不織布等を使用時に化粧料に浸漬して用いるものが市販されている。

【０００３】

例えば、これまでに開発されているパック剤として下記特許文献１及び２が挙げられる。

特許文献１には軽量でかさばらないシート状のフィルムとして安価に製造でき、顔面への適合性及びパック効果の優れたシート状パック剤が記載されている。

特許文献２には水溶性高分子、多価アルコール、架橋剤、水及び美肌成分を含む基剤に、清涼剤、芳香剤および／または皮脂調整剤を配合して成るシート状パック剤が記載されている。

しかし、上記特許文献１及び２に記載のシート状パック剤に含浸されている美容成分等を皮膚に深く浸透させるには、シート状パック剤を使用する前に皮膚を洗浄する等の工程が必要であり、作業が煩雑になるという問題点を有する。

【０００４】

一方、皮膚の汚れを除去する手段として、クレンジングフォーム、クレンジングクリーム、クレンジングジェル、クレンジングオイル、洗顔フォーム、石鹸、ボディソープ、ピーリング剤等の名称で流通している皮膚洗浄剤を使用するのが一般的である。

【０００５】

その中でもピーリング剤と呼ばれる皮膚洗浄剤は、皮膚に塗布し軽く擦ることによって固形化した垢状の凝集物と一緒に皮膚の汚れや古い角質を除去することができる皮膚洗浄剤を指す。視覚的に汚れが除去される過程を実感でき、且つ皮膚表面の汚れや角質を強力に除去できる皮膚洗浄剤として現在までに数多く開発されている。

【０００６】

現在までに開発されたピーリング剤の例として特許文献３が挙げられる。

特許文献３では、ビニルポリマー及び４級カチオン系界面活性剤としてモノアルキルトリメチルアンモニウム塩及び／又はジアルキルジメチルアンモニウム塩を含む皮膚洗浄剤が記載されており、この皮膚洗浄剤が皮膚の汚れの除去効果に優れ、洗い流した後や拭取った後の皮膚状態が潤沢性にも優れると共に、汚れが除去される過程がより視覚的に実感され得るものであることが記載されている。

しかし、上記特許文献３に記載の皮膚洗浄剤を使用しても美白効果や保湿効果を十分に得るためには、皮膚洗浄剤を使用後化粧水や乳液、美容液等を塗布する工程が必要であり、作業が煩雑になるという問題点を有する。

【０００７】

上記したような皮膚洗浄と美容成分の供給を同時に行うことができる、煩雑な作業を要しない化粧品が当該技術分野において望まれていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００８】

【特許文献１】特開平６－３２１７３３号公報
【特許文献２】国際公開第０１／０８７２４４号
【特許文献３】特開平１０－２７３４３４号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００９】

本発明は、上記した従来技術の問題点を解決すべくなされたものであって、ピーリング剤として機能し、美容成分や抗菌剤を含む主剤を基材に含浸させて使用することで、主剤が塗布された皮膚を軽く擦ることで皮膚表面の汚れや古い角質を落とし、美容成分や抗菌剤等を皮膚により効果的に浸透させることができるピーリングパック剤を製造することに成功した。

よって、本発明は皮膚洗浄と美容成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができるピーリングパック剤を提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【００１０】

請求項１に係る発明は、主剤を基材に含浸させているピーリングパック剤であって、該主剤は少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、該基材は吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むことを特徴とする、ピーリングパック剤に関する。

【００１１】

請求項２に係る発明は、主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、該主剤は少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含み、該基材は吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含み、使用時に主剤を基材に含浸させることを特徴とする、ピーリングパック剤に関する。

【００１２】

請求項３に係る発明は、前記水溶性ポリマーがアクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体又はカルボキシビニルポリマーのいずれか１つあるいはその組み合わせであることを特徴とする、請求項１又は２記載のピーリングパック剤に関する。

【００１３】

請求項４に係る発明は、前記４級カチオン系界面活性剤が塩化ジココイルジメチルアンモニウム、臭化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム又は塩化トリ（ポリオキシエチレン）アルキルアンモニウムのいずれか１つあるいはその組み合わせであることを特徴とする、請求項１乃至３のいずれかに記載のピーリングパック剤に関する。

【００１４】

請求項５に係る発明は、前記主剤が１価又は２価の塩を含むことを特徴とする、請求項１乃至４のいずれかに記載のピーリングパック剤に関する。

【００１５】

請求項６に係る発明は、前記１価又は２価の塩の配合量が、前記主剤の０．０１重量％から５重量％であることを特徴とする、請求項５記載のピーリングパック剤に関する。

【００１６】

請求項７に係る発明は、前記主剤は美白成分を含み、該美白成分がビタミンＣ及びその誘導体、アルブチン、プラセンタエキス、ハイドロキノン、エラグ酸、ルシノール、リノール酸、コウジ酸、トラネキサム酸又はこれらの成分の２種以上の組み合わせからなる群から選択されることを特徴とする、請求項１乃至６のいずれかに記載のピーリングパック剤に関する。

【００１７】

請求項８に係る発明は、前記主剤は抗菌剤を含み、該抗菌剤がイソプロピルメチルフェノール、トリクロサン又はその組み合わせからなる群から選択されることを特徴とする、請求項１乃至７のいずれかに記載のピーリングパック剤に関する。

【発明の効果】

【００１８】

請求項１に係る発明によれば、基材に含浸されている主剤が少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含むことで、パック材を皮膚から剥離した後、皮膚を塗擦することで垢状の凝集物を形成できるピーリングパック剤とすることができる。これにより、皮膚の汚れや角質を物理的に除去することができ、肌の色を明るくするブライトニング効果が得られる。

基材が吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むことで、主剤を含浸させる

ことができる基材とすることができる。これにより、皮膚洗浄及び美白成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができるピーリングパック剤とすることができるため、別々に使用するよりも短い時間で肌を手入れすることができる。

また、主剤によって皮膚の汚れや角質を除去するため、美白成分や抗菌剤等を皮膚により深く浸透させることができる。

主剤が基材に含浸されている状態で使用者に提供されることで、使用者は容易に短時間で皮膚洗浄及び美白成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができる。

【００１９】

請求項２に係る発明によれば、基材に含浸されている主剤が少なくとも水溶性ポリマー、４級カチオン系界面活性剤、水を含むことで、ピーリングパック剤を皮膚から剥離した後、皮膚を塗擦することで垢状の凝集物を形成できるピーリングパック剤とすることができる。これにより、皮膚の汚れや角質を物理的に除去することができ、肌の色を明るくするブライトニング効果が得られる。

基材が吸水性素材からなるシートであり、紙、コットン、パルプ、レーヨン、シルク、ポリエステルのいずれか１つ又は２つ以上の組み合わせを含むことで、主剤を含浸させることができる基材とすることができる。これにより、皮膚洗浄及び美白成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができるピーリングパック剤とすることができるため、別々に使用するよりも短い時間で肌を手入れすることができる。

また、主剤によって皮膚の汚れや角質を除去するため、美白成分や抗菌剤等を皮膚により深く浸透させることができる。

主剤と基材が別体として収納された状態で使用者に提供されることで、一体となって収納されている場合と比較して長期間保存することができ、使用者は基材に含浸させる主剤の量を自ら調節して使用することができる。

【００２０】

請求項３に係る発明によれば、前記水溶性ポリマーをアクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体又はカルボキシビニルポリマーのいずれか１つあるいはその組み合わせとすることで、皮膚に塗布し軽く擦った際により効果的に固形化され、皮膚の汚れや古い角質をよく落とすことができる。

【００２１】

請求項４に係る発明によれば、前記４級カチオン系界面活性剤を塩化ジココイルジメチルアンモニウム、臭化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム又は塩化トリ（ポリオキシエチレン）アルキルアンモニウムのいずれか１つあるいはその組み合わせとすることで、親油性の汚れをより効率的に落とすことができる。

【００２２】

請求項５に係る発明によれば、前記主剤が１価又は２価の塩を含むことで粘度が低く（５－２０００ｍＰａ・Ｓ）且つ皮膚を塗擦すると効率良く垢状の凝集物を形成できる皮膚洗浄剤とすることができる。粘度の低い主剤を使用することで主剤が基材に含浸しやすくなる。

【００２３】

請求項６に係る発明によれば、前記１価又は２価の塩の配合量が、前記主剤の０．０１重量％から５重量％であることで粘度が低く（１０－４００ｍＰａ・Ｓ）且つ皮膚を塗擦すると効率良く垢状の凝集物を形成できるピーリングパック剤とすることができる。

【００２４】

請求項７に係る発明によれば、美白成分を含む主剤を使用することで、主剤を皮膚上で塗擦し、皮膚表面の汚れや角質を取り除くことで美白成分が皮膚に深く浸透するため、より高い美白効果が得られる。

美白成分がビタミンＣ及びその誘導体、アルブチン、プラセンタエキス、ハイドロキノン、エラグ酸、ルシノール、リノール酸、コウジ酸、トラネキサム酸又はこれらの成分の２種以上の組み合わせからなる群から選択されたものを使用することで、高い美白効果を得ることができる。

【００２５】
請求項８に係る発明によれば、抗菌剤を含む主剤を使用することで、主剤を皮膚上で塗擦し、皮膚表面の汚れや角質を取り除くことで抗菌剤が皮膚に深く浸透するため、より高い抗菌効果が得られる。
抗菌剤がイソプロピルメチルフェノール、トリクロサン又はその組み合わせからなる群から選択されたものを使用することで、高い抗菌効果を得ることができる。
【図面の簡単な説明】
【００２６】
【図１】本発明に係るピーリングパック剤において、主剤を基材に含浸させている状態で提供されるピーリングパック剤を示す。斜線部は主剤が含浸している部分を表している。
【図２】本発明に係るピーリングパック剤において、主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、主剤が別容器に充填された状態で提供される場合を示す。斜線部は主剤を表している。
【図３】本発明に係るピーリングパック剤において、主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、使用時に包装から主剤及び基材を取り出さずに主剤と基材を混ぜ合わせる場合の一例を示す。斜線部は主剤を表している。点線は、熱をかけて閉じる等圧力に弱い方法で閉じた結合部を表している。
【発明を実施するための形態】
【００２７】
以下、本発明に係るピーリングパック剤について詳細に説明する。
【００２８】
＜１．主剤＞
１－１．水溶性ポリマー
本発明で使用される水溶性ポリマーは、従来から主剤（ピーリング剤）において増粘剤として用いられており、粘度に影響し、垢状の固形化した凝集物を発生させるために必要な要素である。
【００２９】
水溶性ポリマーは主にビニル基が重合してなる水溶性高分子であり、アクリル酸ポリマーやビニルポリマーを含む。その重合度や架橋度の違いにより様々な製品が市販されているが、本発明に用いる水溶性ポリマーは、特に限定されず、いずれのタイプのものでも良い。
具体的には、ノベオン社製のカーボポール１３８２、和光純薬工業社製のカルボマー１０３等の各市販品を本発明の主剤において配合することができる。水溶性ポリマーは単一の物質であっても、いくつかの物質を組み合わせたものであっても良い。
【００３０】
また、水溶性ポリマーと上記４級カチオン系界面活性剤とを接触させて形成される水溶液のｐＨは１．２－４．０の範囲内であることが好ましく、２．０－３．５の範囲内であることがさらに好ましい。ｐＨが１．２未満だと皮膚が炎症を起こすため好ましくない。また、ｐＨが４．０を超えると垢状の凝集物ができなくなり、ピーリング効果がなくなるため好ましくない。
【００３１】
本発明の主剤における水溶性ポリマーの配合量は主剤の０．２重量％から７．０重量％であることが好ましい。配合量が０．２重量％未満だと垢状の凝集物が形成されにくくなるため、好ましくない。また、配合量が７．０重量％を超えると粘度が高くなってしまい、基材に含浸しづらくなるため、好ましくない。
【００３２】
１－２．４級カチオン系界面活性剤
本発明で使用される４級カチオン系界面活性剤は、従来から主剤（ピーリング剤）において用いられており、垢状の固形化した凝集物を発生させるために必要な要素である。
【００３３】

４級カチオン系界面活性剤は水や水／アルコール混合系に溶解するものであればよく、塩化物や臭化物としての形態が一般的であり、例えば塩化ジココイルジメチルアンモニウム、臭化アルキルトリメチルアンモニウム、塩化アルキルトリメチルアンモニウム又は塩化トリ（ポリオキシエチレン）アルキルアンモニウム等が挙げられる。

臭化アルキルトリメチルアンモニウムは臭化ステアリルトリメチルアンモニウムや臭化ベヘニルトリメチルアンモニウムを含む。塩化アルキルトリメチルアンモニウムは塩化ステアリルトリメチルアンモニウムや塩化ベヘニルトリメチルアンモニウムを含む。塩化トリ（ポリオキシエチレン）アルキルアンモニウムは塩化トリ（ポリオキシエチレン）ステアリルアンモニウムや塩化トリ（ポリオキシエチレン）ベヘニルアンモニウムを含む。

カルシウムイオンやマグネシウムイオン等の金属イオンのカチオンとしての形態をとる場合には、上記の水溶性ポリマーと接触しても安定した水溶液が得られないため、好ましくない。

【００３４】

また、４級カチオン系界面活性剤の炭素数はＣ８以上Ｃ４０以下であることが好ましい。炭素数がＣ８未満だと、これを配合した主剤を皮膚に塗擦した際に垢状の凝集物ができにくくなるため好ましくない。また、炭素数がＣ４０を超えると上記水溶性ポリマーと接触して得られた水溶液の安定性が低下するため好ましくない。

４級カチオン系界面活性剤は単一の物質であっても、いくつかの物質を組み合わせたものであっても良い。

【００３５】

本発明の主剤における４級カチオン系界面活性剤の配合量は主剤の０．２重量％から７．０重量％であることが好ましい。配合量が０．２重量％未満だと垢状の凝集物が形成されにくくなるため、好ましくない。また、配合量が７．０重量％を超えると基材に含浸しづらくなるため、好ましくない。

【００３６】

１－３．その他の構成成分

本発明の主剤には、上記構成成分の他に必要に応じて、一般的に化粧料に配合される各種成分等を、上記本発明の効果を妨げない限り配合することができる。

これらの成分として、１価又は２価の塩、美白成分、保湿剤、アルコール、抗菌剤、抗炎症剤、植物エキス、洗浄剤、着色剤、エモリエント剤、香り成分及びビタミン類等が挙げられる。

【００３７】

１価又は２価の塩は、本発明の主剤を基材に含浸させやすい形態となるように粘性を低くすることができ、１価又は２価の塩を含む主剤は垢状の凝集物を発生させることができる。このように１価又は２価の塩を主剤に加えることで主剤の粘性を低くしつつ、垢状の凝集物を発生させることができるというのは、本発明者らによって見出されたものであり、特願２０１５－５８３７９において詳細に記載されている。

本発明においてこの１価又は２価の塩を適切な濃度で加えることで、粘度が５－２００００ｍＰａ・Ｓ、好ましくは１０－４００ｍＰａ・Ｓの主剤とすることができる。これは、粘度が通常５０００ｍＰａ・Ｓ以上である従来のジェル状の主剤と比較して粘度が格段に低いものである。

１価又は２価の塩として様々な製品が市販されているが、本発明に用いる１価又は２価の塩は、特に限定されず、いずれのタイプのものでも良い。１価又は２価の塩として、例えば塩化カルシウム、塩化ナトリウム、塩化マグネシウム、塩化アルミニウム、塩化カリウム又は塩化バリウム等が挙げられる。

本発明の主剤における１価又は２価の塩の配合量は主剤の０．０１重量％から５．０重量％であることが好ましい。配合量が０．０１重量％未満だと主剤がジェル状になってしまい、基材に含浸させにくくなるため、好ましくない。また、配合量が５．０重量％を超えると二次凝集が起こって基材に含浸させにくくなるため、好ましくない。

【００３８】

美白成分として様々な製品が市販されているが、本発明に用いる美白成分は特に限定されず、いずれのものであっても良い。美白成分として、例えばビタミンＣ及びその誘導体、アルブチン、プラセンタエキス、ハイドロキノン、エラグ酸、ルシノール、リノール酸、コウジ酸、トラネキサム酸等が挙げられる。

これらの美白成分は単独で使用しても、複数を組み合わせて使用しても良い。

【００３９】

保湿剤として様々な製品が市販されているが、本発明に用いる保湿剤は特に限定されず、いずれのものであっても良い。保湿剤として、例えば濃グリセリン、ヒアルロン酸ナトリウム、ヒアルロン酸、コラーゲン、プラセンタエキス、加水分解コラーゲン、１，３ブチレングリコール等が挙げられる。

これらの保湿剤は単独で使用しても、複数を組み合わせて使用しても良い。

【００４０】

アルコールとして、例えばエタノール、イソプロパノール、ジプロピレングリコール、無水エタノール等が挙げられる。アルコールを含むことで、ピーリング剤中に親水性及び疎水性の物質を同時に溶解することができる。また、ピーリング剤の粘度をさらに下げることができる。

【００４１】

抗菌剤として、例えばイソプロピルメチルフェノール、トリクロサン等が挙げられる。

【００４２】

抗炎症剤として、例えばグリチルリチン酸ジカリウム、アラントイン、グリチルレチン酸ステアリル等が挙げられる。抗炎症剤を含むことで皮膚の炎症を抑えることができ、肌荒れを防止できる。

【００４３】

植物エキスとしてユズセラミド、サクラ葉抽出液、アロエエキス、ローズマリーエキス、パセリエキス、チャエキス、カワラヨモギエキス等が挙げられる。

【００４４】

洗浄剤としてラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリコール、ポリオキシエチレンアルキル（１２－１４）エーテル等が挙げられる。

【００４５】

着色剤として赤色１０６号、黄色４号、青色１号、緑色４０１号等が挙げられる。

【００４６】

エモリエント剤として、オリーブ油、ホホバ油、パルミチン酸２－エチルヘキシル等が挙げられる。

【００４７】

香り成分として、オレンジ油、ノバラ油、ハッカ油等の精油及び香料が挙げられる。

【００４８】

ビタミン類として酢酸トコフェロール、天然ビタミンＥ等が挙げられる。

【００４９】

＜２．基材＞

本発明で使用される基材は、従来から美容用パック材として用いられているものであり、主剤に含まれる美白成分や抗菌剤等を皮膚により深くに浸透させるために必要な要素である。

【００５０】

本発明で使用される基材の材料としての吸水性素材は、例えば紙、パルプ、コットン、レーヨン、シルク、ポリエステル又はその組み合わせ等が挙げられる。

【００５１】

本発明で使用される基材の形状や大きさは、用途に応じて変えることが可能である。例えば、顔に貼って使用することを想定した場合、顔を覆うことができる大きさで、目、鼻、口に対応した部位に穴が開いているものであっても良く、デコルテや足に貼って使用す

ることを想定した場合もその貼付する身体の部位の形状に合わせた形状とすることが好ましい。
さらに、本発明で使用される基材の形状は、使用に際し、使用者本人の顔面や目の周囲、足の形状や範囲によく適合するような形状、大きさにカットするようなものであっても良い。
【００５２】
＜３．主剤を基材に含浸させているピーリングパック剤＞
図１は、本発明に係るピーリングパック剤（１）において、主剤（４）を基材（３）に含浸させている状態で提供されるピーリングパック剤を示す。斜線部は主剤が含浸している部分を表している。
図１に示すように、本発明で使用されるピーリングパック剤（１）は、使用者に提供する前に予め主剤（４）を基材（３）に含浸させてから包装用袋（２）に包装し、市場に供することが可能である。
包装するものは、図１に示す如く包装用袋（２）であっても、紙製の箱等であっても良く、特に限定されない。
基材は図１に示すように１つであっても、複数であっても良い。
これにより、使用者は包装を開封してすぐに皮膚洗浄及び美白成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができる。
【００５３】
＜４．主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤＞
図２は、本発明に係るピーリングパック剤において、主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、主剤が別容器に充填された状態で提供される場合を示す。
図３は、本発明に係るピーリングパック剤において、主剤及び基材が別体として収納されているピーリングパック剤であって、使用時に包装から主剤及び基材を取り出さずに主剤と基材を混ぜ合わせる場合の一例を示す。図２及び３において、斜線部は主剤を表している。点線は、熱をかけて閉じる等圧力に弱い方法で閉じた部分を表している。
本発明で使用されるピーリングパック剤（５）は、主剤（４）と基材（３）を別体として収納し、使用者が使用時に主剤（４）を基材（３）に含浸させて使用することもできる。
限定されないが、具体的な包装方法の１つとして、主剤（４）と基材（３）とを２つの別々の包装の中に分けて収納する方法が挙げられる。
別体として収納する場合、基材（３）に主剤（４）を含浸させる方法として、図２に示す如く、主剤（４）が別容器に充填された状態で提供する方法がある。より具体的には主剤（４）をスプレー容器に入れて基材（３）に噴霧することで含浸させる方法や、液状又はジェル状の主剤（４）を基材（３）に塗布することで含浸させる方法が挙げられる。
噴霧することで基材（３）に主剤（４）を含浸させる場合、噴霧できるように主剤（４）は粘性の低いものを使用するのが好ましい。この場合、上記のように１価又は２価の塩を主剤（４）に加えることで主剤（４）の粘性を低くしつつ、垢状の凝集物を発生させることができるため、１価又は２価の塩を加えて使用することが好ましい。
この時、主剤（４）と基材（３）は、図２に示す如く区画化された１つの包装用袋（２）に包装されていても良く、区画化されていない１つの包装用袋に入っていても、別々の包装用袋（２）に入っていても良く、その包装方法は特に限定されない。包装するものは、図２に示す如く包装用袋（２）であっても、箱等であっても良く、特に限定されないが、図３に示す実施例においては包装用袋（２）であることが好ましい。
包装される基材（３）の数は図２に示すように複数であっても、１つであっても良く、特に限定されない。
もう１つの包装方法としては、図３に示す如く主剤（４）と基材（３）を１つの包装の中で並べて配置し、主剤（４）と基材（３）の間に、熱をかけて閉じる等圧力に弱い方法で閉じた結合部（６）を有し、この結合部（６）を折り畳む等して圧力をかけて開封する

ことで、手を汚さずに使用時に主剤（４）と基材（３）を混ぜ合わせる方法が考えられる。

図２や図３に示すように主剤（４）と基材（３）を別々に提供し、使用者が主剤（４）を基材（３）に含浸させて使用することにより、一体となって収納されている場合と比較して長期間保存することができ、使用者は基材（３）に含浸させる主剤（４）の量を自ら調節して使用することができる。基材（３）に主剤（４）が含浸する前であれば、使用者が自ら基材（３）を必要な形状や大きさに切って使用するのが、主剤（４）を基材（３）に含浸させた状態で提供された時と比較して容易になる。

【実施例】

【００５４】

本発明のピーリングパック剤の有効性を、以下の実施例によって確認したが、本発明の技術的範囲がこれらの実施例によって制限されるべきものではない。

【００５５】

＜美白成分を配合した主剤の処方例＞

美白成分（プラセンタエキス）を配合した本発明に係るピーリングパック剤（実施例１）の主剤の組成を以下の表１に示す。

【００５６】

【表１】

成分名	重量%
水	残余
グリセリン	５
塩化ジココイルジメチルアンモニウム	０．１５
臭化ステアリルトリメチルアンモニウム	０．１５
グリチルリチン酸ジカリウム	０．０５
ヒアルロン酸ナトリウム	０．００１
ユズセラミド	微量
サクラ葉抽出液	微量
アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体	０．３
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	０．１
プラセンタエキス	１０以下
イソプロパノール	０．１

【００５７】

＜抗菌剤を配合した主剤の処方例＞

抗菌剤（トリクロサン）を配合した本発明に係るピーリングパック剤（実施例２）の主剤の組成を以下の表２に示す。

【００５８】

【表２】

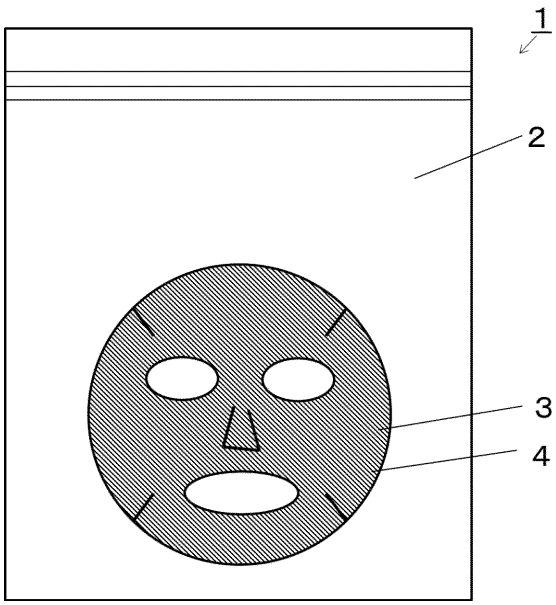
成分名	重量%
水	残余
トリクロサン	０．３以下
グリセリン	５
塩化ジココイルジメチルアンモニウム	０．１５
臭化ステアリルトリメチルアンモニウム	０．１５
グリチルリチン酸ジカリウム	０．０５
ヒアルロン酸ナトリウム	０．００１
ユズセラミド	微量
サクラ葉抽出液	微量
アクリル酸・メタクリル酸アルキル共重合体	０．３
ラウリルジメチルアミノ酢酸ベタイン	０．１
塩化カルシウム	０．１
イソプロパノール	０．１

【産業上の利用可能性】

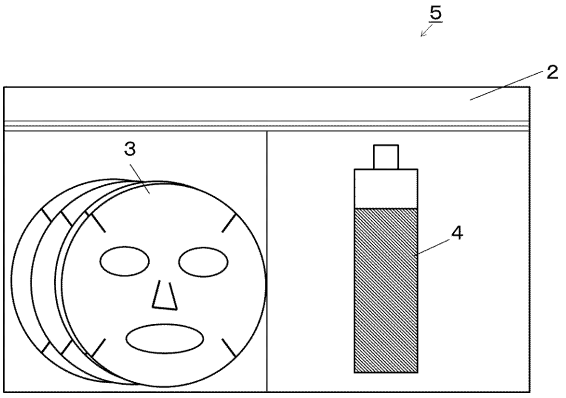
【００５９】

本発明は、皮膚洗浄と美白成分や抗菌剤等の供給を同時に行うことができるピーリングパック剤として利用できる。

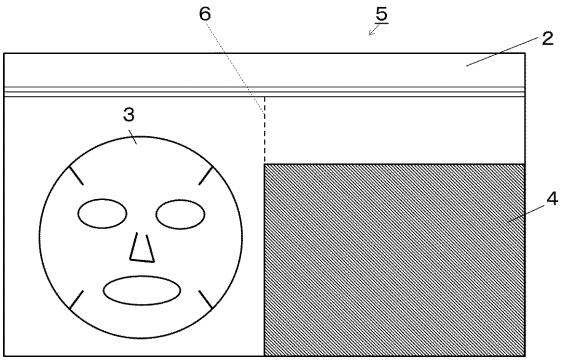
【図１】



【図２】



【図３】



フロントページの続き

Ｆターム(参考) 4C083 AA071 AA072 AA112 AB342 AC102 AC122 AC251 AC311 AC471 AC621
AC691 AC692 AC712 AC811 AC812 AC841 AD091 AD092 AD332 AD391
AD532 AD641 BB06 BB36 BB48 CC07 CC23 DD12 DD50 EE12